

プロファイリング（企業組織構造の把握）に関する 次年度へ向けた検討事項について

本年度の検討を踏まえ、次年度においては、以下の事項について、プロファイリング（企業組織構造の把握）の実施に向けた検討を行う。

- 確認対象企業については、指標に基づき定量的な基準で対象範囲を設定することに加え、企業の個別の複雑な状況について、各種データや公開情報などから確認を行い、選定する。
- 必要に応じて試行的にプロファイリングを実施することなどにより、業務内容・体制を具体化する。
- 試行等を通じ、1企業あたりの処理量等、要員算出の基礎となる定量的な情報を把握する。
- 業務に導入するシステムはどのような機能が必要かを確認し、仕様を検討する。
- 事業所母集団データベースの整備におけるプロファイリングとして、大規模・複雑な企業組織構造の把握の他にも、母集団情報の精度を維持する観点から、現在実施している行政記録情報に基づく照会業務の拡充の検討を行なうとともに、更にその他にもプロファイリングを行なうべき事象がないかを確認し、必要に応じて検討を行なう。